SkeedSilverBullet™ 導入事例

株式会社 ヒューマンセントリックス 様

映像業界で斬新な遠距離分業体制を敷く ヒューマンセントリックスを支える SkeedSilverBullet™

映像を活用したブランディングや各種製品プロモーションの企画、提案、撮影を手掛ける Web プレゼンテーション動画制作専門のプロダクション、株式会社ヒューマンセントリックス様。同社は 2004 年 6 月の設立以来、一貫して首都圏で案件受注・撮影し、福岡で編集・制作するという遠距離間での分業体制を敷いている。その背景には社名でもあるヒューマンセントリック、すなわちワークスタイルを大切にする“人中心”の経営理念がある。時代を先取りするかのような同社の企業活動には、しかし、それに相応しい先進的な通信基盤もまた不可欠であった。そこに SkeedSilverBullet™の真価が発揮されている。

課題

●福岡と東京で Web 動画制作を分業する同社にとり、撮影データの長尺化・大容量化は転送遅延を来し経営を直撃

➢制作部門で、撮影素材ファイルを送信するために 1 日 30 時間もの待機時間が発生

➢従来の FTP 送信では転送時間が長く、瞬断やパケットロスに伴う欠損箇所の確認、再送信といった手戻り作業が頻発

➢撮影データは転送前処理としてのエンコーディングが必須で、当該ファイルの尺（放映時間）の 3 倍程度の時間が必要

検討プロセス

●当社に SkeedSilverBullet™のプロモーション用動画撮影の機会があり、そのシナリオを見た撮影スタッフが導入を起案

●決裁段階では課題の深刻さと代替手段がないことなどから、異例のスピード承認

導入効果

●転送時間は 1 件当たり従来平均で 2、3 時間、エンコーディングを含めると平均 5、6 時間要したものが、導入後は 5～10 分と数十分の 1 に短縮

●瞬断トラブルやパケットロスによる手戻りはレジューム機能、SHA-1 等の機能により解消

●結果として

・月間制作本数は 200 本以上に対応可能

・地方在住のクリエイターの待機時間を解消

■地方在住の優秀なクリエイターと首都圏のビジネス機会を活かした事業戦略

ヒューマンセントリックスが取り組む Web プレゼンテーション動画制作は、エンターテイメント向けの映画や TV 番組などと異なりまだ市場としては成長途上にある。もちろん、参入企業は相次ぐものの作品のクオリティや価格面で顧客企業の信頼を勝ち得ている事業者は多くはない。そうした中で、ヒューマンセントリックスはすで顧客企業 700 社、制作コンテンツ 7,000 本を数え、リピート率 92%という突出した実績を誇る。

なぜ、同社はここまで成功を収めてきたのか。そこには創業社長である中村寛治氏の立てた 2 つの戦略がある。1 つは SVP（Super Visual Presentation）といわれる、人物の動きと Flash を境界線なく融合させた Web コンテンツを開発したことであり、その制作のパッケージ化、テンプレート化、ノウハウ共有化を図ることで廉価に安定した品質で制作することに成功した。そしてもう 1 つが、地方と首都圏での分業体制の確立である。この発想は、中村社長がかつて外資系 IT 企業の営業活動を首都圏で 8 年間、地方で同じく 8 年間行ってきた中で感得したものであり「地方には優れたクリエイターが多く、東京はビジネスチャンスの宝庫。これを結び付ければ面白い」「一昔前、IT 業界ではサーバセントリックスあるいはデータセントリックスというサーバやデータを中心としたシステム設計が主流にあったが、これからは人を中心とした時代が来る」（中村社長）というアイデアであり、それは前述のとおり、社名の由来にもなっている。実際、同社の案件受注の 99.5%は東京、開発・制作は 100%福岡と、国内を大きくまたぎながら各自が能力を十分発揮できるワークスタイルを確立している。

但し、この体制を維持・拡大していくには大きな壁があった。国内とはいえ 1000km もの距離を隔てていること、そして制作コンテンツが動画という大容量ファイルであるため、そのやりとりが通常の転送方法では長時間要してしまうのである。

SkeedSilverBullet™ 導入事例

株式会社 ヒューマンセントリックス　様

Human CentriX

株式会社
ヒューマンセントリックス
代表取締役社長
中村 寛治　様

映像制作部
部長
山本 和人　様

映像制作部
ビジュアルデザイナー
千葉 小百合　様

株式会社ヒューマンセントリックス

本社：東京都中央区日本橋室町 1−5−3

設立：2004 年 6 月 11 日

資本金：2,500 万円

業務内容：映像を活用した企業ブランディング、製品プロモーションの企画、提案、撮影

※映像制作、開発は 100%子会社である株式会社 HCX クリエーターズネット（福岡本社）が担当

■前処理を含めると 1 日掛かりになる、動画ファイル転送

動画制作を遠距離間で分業することが容易でないことは当初から予想されていた。そのため、同社では「設立当初から極力、尺（放映時間）の短い動画作品に受注を絞っていた」（中村社長）という。しかし、最近は大容量化に拍車が掛っている。同社映像制作部部長の山本和人氏によると「フル HD 化や講演・セミナーなどの長尺のものが増えており、東京で撮影した映像素材を福岡のサーバに送るファイルは平均 5GB 程度にはなります。今後はますます大容量化していくと思います」。では、その転送に実際どの程度の時間が必要なのか。動画撮影や録音など収録を担う同社映像制作部ビジュアルデザイナー千葉小百合氏は SkeedSilverBullet™導入以前のことと前置きした上で、「それまで FTP ツールを使っていましたが、送信時間だけで 2、3 時間は必要でした。とはいえ、届いたはずのファイルに欠損があると、その部分を特定しなくてはならずとてもその時間で終わりません」と、業務がいつも深夜に及んだことを振り返った。しかも、動画ファイルの転送はそれだけで済まない。山本部長が続ける。「大容量になるので送信前にエンコーディング（圧縮）作業が必要ですが、それだけで例えば 1 時間の作品なら、その 3 倍の 3 時間程度掛かります」

注：処理時間はマシンスペックとファイル形式により変化します。

つまり、平均的な Web 動画作品素材を転送するのに、前処理を含めると 5〜6 時間以上必要ということになる。しかも、途中で転送が途絶えたり欠損があれば更にその確認や再送信など手戻りを含め時間を要する。これでは、同社が描く地方と首都圏を結び付けたビジネスモデルは維持できない。「仮に転送時間が 3 時間だとしても、1 日 10 本の生産ペースなので 30 時間もクリエイターに待機を強いることになります。それだけでもの凄い損失になるわけです」（中村社長）。まさに経営を直撃する課題だったのである。

■月産 200 本の制作を支える大容量高速ファイル転送ソフト

そんな折、偶然にも SkeedSilverBullet™のプロモーション動画制作依頼が同社に舞い込んできた。その撮影に取り掛かる中で、シナリオに描かれていた同製品の機能に目を疑ったのだという。「これこそ私たちの仕事に必要な製品じゃないのかな」そう直感した千葉氏は早速、上司に掛け合った。ただ、こうした稟議申請は製品購入よりも自分たちの創意工夫で何とかすべしと却下することが常であり、まして他の類似製品などとの比較検討や相見積を揃えなければ殆ど検討対象にならない。ところが、「なぜか不思議とこの件だけはすんなりと承諾を得た」（千葉氏）。もしかすると当の上司もこの遠距離間の大容量ファイル転送については容易には対処できないと諦めていたのかもしれない。

こうして、SkeedSilverBullet™を導入してほぼ 3 カ月になるが、その効果は期待以上のようだ。「転送時間はこれまで 2、3 時間要したものが、5〜10 分程度で完了します。また、仮に回線瞬断などあってもレジューム機能があるので手戻りがなく、凄く助かります」（千葉氏）、「エンコーディング処理をしなくとも大容量のまま転送できるので、それを含めると相当な時間短縮になります」（山本部長）

すでにヒューマンセントリックスの動画制作本数は月産 200 本を超えている。「従来の FTP による転送では生産量はもう限界だったかもしれない」（中村社長）という中で、SkeedSilverBullet™の導入は、そうした壁を取り払ったといえる。地方と都市を繋ぐ人中心のビジネスモデルを推進する上で、また、優秀な地方の人材に多様なビジネス機会を提供する結節点としてヒューマンセントリックスの活躍はますます期待されるところである。そして、その下支えとなる転送基盤として SkeedSilverBullet™への期待も増すばかりだ。

SKEED

株式会社Skeed
〒153-0063 東京都目黒区目黒 1-6-17 目黒プレイスタワー 5F
TEL：03-5487-1033　　FAX：03-5487-1037
http://www.skeed.co.jp　　E-mail：ssb-std@skeed.co.jp
©2013 Skeed Co.Ltd.